

官民諸氏が同問題の解決を一日も早くせよ
 れんことを希望致す所。
 ⑤ 眞内閣更迭の噂、今朝、なれども余輩
 余りに耳に止るの不申候、統制が體を素より

爲めなり獨逸外交界は所謂獨逸皇帝會見舉行なるもの、要點として要置せるに有る。日本邦國にては略定れるもの、暗闘ありとせるもの、獨逸は極東問題について前代に有る表の運びに至らざるに於て韓國問題の理事に對しては日本の言葉と曲解するの類々、事と二日確定したる。

●愛國婦人會 昨日午後二時同會
國本部より小松本島南婦人は南山本願寺
後両善女堂明に世界より一校女子を召し
際し慰問品を贈呈する事

右僧の屍体漂着し、檢視を遂げたるに、傷痕
認めざりしも四肢を緊縛しありて、豫ての
の如く、暴徒のために海中に投入せられた

原因は、關各直産の香しき豆（金豆）と中豆と、
 基困したるものなるべしと雖も、然も最も最
 し減少したるは米豆の不作、内地の不景
 り因つて億ふに輸出大貨物に於て昨年に
 振實金にて月百九十七萬五千五百圓を減じ

▲佐藤政次郎(同所技師) 同上
▲宇土兵衛(海軍主計少監) 五日
旅館

だん／＼道を遮ひに隨つて、厭な臭
と笑ふのが、忍び／＼なつて来る。
「あつ／＼い、何んといふ吾な／＼清だ
う」と、和子は海の中を覗き込んで
「さうさへ斯様に思ふのだから、炎天婦
女が其の日に甚だ好ま／＼と見えた
して教へてゐるがさう多いだらうと思つた
和子が、髪を〇〇料理と名打つた格
好の短き髪を、明を減らす格好で、

東條新橋沿井四十三號新
 橋姓女は「一昨日午後九時頃自宅風呂
 の一室に於て鴉片を飲用し自殺企てたる
 が夫頼明の爲めに發見され直ちに醫者を迎

戸張頼明の妻

戸張新判官
 エーテー店主任
 淵田實雄氏

放多良歌誌(二)
 ●狂歌
 ▲魚友痴史を吊ふ
 興ふかき清瀬海の波浪そこに
 消へてゆくも白魚の友
 ▲迷ない生に怯く
 痴史が庵は因の大門上に抜け
 又其の上を一段筋の外路
 ▲御纏方口占す

況の由群衆は廣告欄にあり

開質
業屋


京城本町七丁目

松田慶之助

▲東京から落路家の上手
なのを呼び寄せては何う
かなを思ふ諸元氣儘と云

文民平

●●●●●



ら、偶然出て來た。角刈の水の高い、色は黒い三十許の婦人だ、其の後に來たに、若い女、細く、眼や鼻を磨り、手に、跟て來る、顔の紅や襟首の邊は、白粉が刺して仕舞つて、耳朶、後方、比較的、低い鼻、兩邊に、僅に其の赤を止めて居る、見からぬ、家のない、色の黒い醜婦であらう、其の和田と見た、和田は氣色惡うに顔、外らした。

「又、近中と出なさい」と女が言つた。又、水の中へ、月見袋のない返事、邊にスグ、行つて仕舞ふと、女も總てに引込んで仕舞つた。

上へ躍進して居るのを察せ、故直ちに引退して本署に引致したといふ。而して右の荷車を挽き去りし曲者は何れへ逃げ去りしや。今に不明なりといふ。

●入墨新兵

全身に着替へ砲兵聯隊入營し、今回甲種合格を以て大隊の野砲兵第四聯隊第三中隊に入營せる壯丁才賀廣松(二)は同市西區にて漢仲仕をなしたる者にて何時施せしものか。背と腹は無論手では不足といはれず全身一匹馬を足にして平地に朽さし、寝たる状態の訓練をなし居り前代長閑の新兵なり聯隊長は僅かに淫靡のもののため

を完うせんため横濱の慈る寺院に身を委ね
 願者修練精進の研鑽を積み、造詣する所あ
 りしが、中途退社所願ひて、目的を替へ實業
 家となし、志し三十八年八月當時のエーテ
 本店は釜山排天町、京釜鐵道會堂列車
 調貨ひ）支配人として濶幹し京坂支店話と
 なつたのである爾來勤勞奮身を以て同店店
 の爲めに努力し多大の貢獻を與へ専ら同店
 の重鎮として一方の店權を握るやうになつ
 たのである三十九年七月京城一にてマツ
 然餘業人となり、本店退の繁榮と顧客の濟
 足とを期するに一の當心して居る故を以て
 一般顧客よりの評判より其の調理の美味

同 (六日平民文庫參照)
 滑稽歌謡樂作(一)
 ▲電信柱から斜に針金を地上に立つて居るが、晝間は兎も角夜分などは實に危険だ、現に此の間針金を顔に打つた「エレベーター」乗客の夜道の電信機顔は、金で眼から火が出た
 ▲汚物掃除はナカニ行き届いて居る序に汚れもの洗濯を運送貰ひたい
 「獨立と稱は名のみの新世帯」
 まて其最悪な手か頼らず

朝鮮海話
 譯者 韓經、鳥越龍藏、南有
 此書に乘るものなり、曼書は朝鮮民一流の

のは家賃と下女の給金と敷金と風呂銭との高いくとだ（新橋）▲京城に強姦非道の客主が三四人ある彼等は常識を有せず人情を解せず自分の方に都合のよき理屈を並べて得たり是等は宜しく其の筋に於て家主に給金を設けて嚴重に取縛つて貰ひたい（旭町住人）▲山櫻といふ老嫗は毛ちかく羽當りにより一箱七十錢値も賤い（日本子）▲オイ、理事廳の都賀屋のつづヤン客に對しては誘ひに誘はれず其の買手金申さるゝ

「ア、あれが所謂『南無』と和田は
に頷く。同時に「ア、因はなれたる女」
と云ふ。

人になれた箱の小食は、自由の翼を
ふけられ、生活難に思ひ辛みの心算は
いのである。教會と云ふ籠の中に囚はれ
加之に眞理の鎖に繋がれた人生ほど
なげなものはなからう。天帝から賦與
された自由の權利は者は、眞理の人情の
世の中に束縛し、うれでも尚ほ生さ
ならぬ社會の義務があるなら、何ん
と云ふならい生涯だらう。眞理は辛むもの
人情は忍び難いもの、如何かして此の
苦人情と云ふ翼を脱つて仕舞いな、と

心に腹中の虱を齧るやうな感じがして、何となく全身が白布で包まれてゐるやうな感じがした。その時、彼は「何の者とも別明せず」とつぶやいた。

去四日大邸唯一の料理屋達城館に於て遊客の自體験は派手なものであり、今下に襟巻を穿たせし色白の八字髷結頭の婦人に同じく羽織を着流し旅行靴を携へたる三十歳前後の一人の男唯客語詠に投宿したり此男は其母達城館に嫁り込み自分は川本町土井光四郎なるものの故て今年太田より來居せし旨言ひ振らし置けり御指婚願久子の手を取りたい

遊客の自殺

何所の者とも別明せず

去四日大邸唯一の料理屋達城館に於て遊客の自體験は派手なものであり、今下に襟巻を穿たせし色白の八字髷結頭の婦人に同じく羽織を着流し旅行靴を携へたる三十歳前後の一人の男唯客語詠に投宿したり此男は其母達城館に嫁り込み自分は川本町土井光四郎なるものの故て今年太田より來居せし旨言ひ振らし置けり御指婚願久子の手を取りたい

なるも價の低廉なると思つ客扱ひの殷懃なると思ふ殆んど他に比類がない氏人となり尊厳に申し着候の心厚く禮度優雅、而も氣格に富み居る從つて商標を弄して標識に因らざる大に對して表裏の別を弄してない凡ての處より口が眞面目で漸進的である、現今にでは筒袖、尻の端折りの姿で下廻りの小僧並になつて立ち廻ひて居る生れは三至五、本年三十七歳の血氣盛りである

店員

大塚 松榮氏

原籍は千葉縣長生郡御海村、本年二十五歳、エーラーの爲めには最初から能く識し足るの朝鮮に渡つたのが三十九年四月、最初へ

筆を以て巧みに韓人の風俗習慣を畫しし
之が證明者は彼の「よば記」暗黒の朝鮮
を著したる薄田新太郎氏兩々相俟つて讀
の感に動かすもの又偶然に非ざるなる月
次は「大臣行列」温泉の湯屋「ハイカラ
生」牛刀「紙芝居」鳩市屋「喜劇の衝突
等」外四十三種なり（一冊四十四錢京橋本町
鎌倉屋發兌）

●掃除から喧嘩 西部大尹四十四錢金
演者）林某（一は一日午後六時頭始
の事がから喧嘩して警官から大目玉を頂戴

●無銭遊樂 一日午前四時平頭長谷
町若澤商會の雇大工小澤豊五郎（一西岡

物は、其の所爲にて、
 屋の兄等、
 一、面白いが少しは短所も出したまへ
 貴紙三面の店員詳細記はナ
 會社員、
 僕の親戚の者者は京へ来て
 非常に道樂者になつた内地に居る時
 カゝ空かつたのに、此れも他に、
 娛樂の機關がない爲めて、記者さん居
 地の風物上何と考へて下さる。心配生
 印の周野、鯉科の井口、餘り盛張る、
 山で拾つたと云つて賣つた二十頁、余
 縁の一件を著す感歎くを稱揚す

廣 告

●見壹萬圓の寶

九 廿 百

は社會と云ふ大きなサテを打破して、燒
ておぼろけなきが、ナラ 甚麼も打破して、燒
うかと和田は、又深くも考へた。

●揚州街道の追剽

戴中に滑みぬる

京城市街を去る儀が二里許の所に（
街道）末月下旬より追剽に出沒し通行人
へては金品を強奪せしも隠されば暴
へて目的を達する由の噂を耳にし
揚州警署にては時節柄格付置きがた
なし早速刑事を派して其の附近を徘徊
も警備せしを怠りなかりしが彼等は
に表を破つてその見物客風に誘ひ現
に表を破つて其の見物客風に誘ひ現

一日二日三日と其の妻に連れ渡り先子及び
 姦妓の金時、どん子等を引き連れ駕座に伊
 井一座の新瀨川見物と洒落れ込むなど大衆
 風を吹かせ居りしが四日午後七時頃久子
 搖り起し暫ら一人にて戯くりやすみ度良
 ればどて女を遣へて格別怪しき様子を見
 ざりしが久子が九時頃同室に到り見れば
 乃そ如何に客は一面血を流して絶息
 居たり而節に乃に急に警察署及び同仁會
 等に報じ應急手當を施したるも遂は何等
 効果もなかりしなり 同人の技許には小
 空瓶のころがりありしを見ればモルヒネ手
 懸せしものと想像せしる所同人大前節に
 懸せしものと想像せしる所同人大前節に

堂車に乗り込み其の後本店詣である人
の一月京城ノターに於つたのである本
は當世の壯者として珍らしい、芝居書
もいふ方である現今にてはよく主人を助
て職務を勉勵し一點茶目向の行ひがない
臆は却々達者なものである

わて應急の手當を施したるが生命だけは
も止めたりと云ふ原因は未だ順明の無情遊
を苦にしてなりと

●老母ナイフにて咽を刺す

陰謀性に富みし結果

東部邊花坊五ノ四社居住貴族園の資川邊
女は、乙酉三年前より陰謀性に富み、平

年(一)及び永田政七(三)の三人が太本町
下目九州横へ押し切りヤレ直だ着た婦人
大散財を爲した愚句イザ勘定となつて養
無一文なるより棲土警署へ届け出て
手が結、同商會は島本虎といふのが五
六十錢大持ちを奉り事済むなりたり

●九號の大割引 本町四丁目九京杉
商店にては去る五日より來る三十一日迄
札より三割引にて藏賣り出し中なるが
切取物及び端切れ等は幾切の安價なる

●銀座藏賣り出し 本町三丁目倉
商店にては去る五日より景品附藏賣り出
中なるが非常なる好現の由景品額頗る三

夫は皮膚病専門藥セリールの發見であ
カリアルは生體化學の原理運用に依て
明せられたる高麗皮病に對して皮膚の
織を根本的に變化せしめ如何程色黒
きもあれ肌の人々光澤甚しき人も一度
セリールを用ふれば忽ち光澤を増し肌を
白色と白くす父ニキビトカスツノフキデシ
ンヨウエタギエマノカニガサノオホ
ロヒヤシシモヤリ等皮膚に現れたる
病に對して尤も心持よく速に全治す
るべく證據したる御意

定價小瓶拾錢 大瓶十錢 別製金銀
造料内地丸樽 兩樽裝 參拾錢
大樽裝一圓

發賣元 自然堂 福井兼義藥房

今回尤も老練なる松岡繁太郎氏を聘し左之通り分臈治療に從事仕候

内科 小兒科 婦人科 眼科 外科 花柳病科 副院長 松岡繁太郎

併席御料理

尚御注文に應じ何時にても調理可致候

併辨當仕出し

京城本町三丁目

松金

新築落成
移轉廣
左の所へ移轉す
大和町軍司令部通
小川病院

京 城 本 町 四 丁 目

日出商行

繪葉書行商人數名募集望の御方至急御來談被下度候

銅製燒酎蒸餾器

元祖

銅製

酒類蒸餾器

土地家屋
雇人口入業

本横二丁

六筋上

丁ヨ上

日一上

西一上

商直

高等御下宿
國分旅館

手

番町二丁目

新製 刻黃 薩摩富士
大賣出し御披露として 本月中は特別明治町
聯合賣出し品引替券四十目入一袋毎に一枚
を進呈す

各國人力車 明治町一丁目
用 蠟燭 商 會

●繪葉書營業者に謹告●

年賀用繪葉書
風景繪葉書
各種取揃

土耳其金口煙草 C D
 インペリアル
 茶褐色スホルト
 各種
 京城代理店
 歐米雜貨商
 六丁目
 岡野商店
 電話五七一番

神田組

我思ふ母國新聞(三府四十

次店は有りや無しやと御
方あらは

唯人成底
支店 龍山漢江
あるのみと御答可被下候

● 手打一斤

治

青石
選之茶

水ノ

京城本町四丁目

易新觀目及敘

黄文館
近來館裏は

謹告

ル一
死仕候葬式

猶同人生前猶二街屋傍不一

遺族一同感謝罷在
右謹告仕候

十二月
山口

日本郵船株式會社

海船出帆

仁川海岸通
郡
國

京杭南大興通
巴
商

山東丸
十二月二十
●大連行

大連、景芝、秦皇島行
山東丸
十二月八

田丸 十二月廿

御乗船ノ際ハ和風波止棹ヲ
送迎船ニテ御送り可申候送
迎船凡ノ五十分前ニ沿岸

●新聞稿
▲一枚金二錢▲一ヶ月間の
前金壹圓▲六ヶ月間金貳圓
拾金

一廣告五國活字十九字諸一行
發行處總辦人 秋山

發行所 東京

御注文は代金引替小包に御送付

於ける最新流行の品を東京及歐米諸國より直接輸入頗る勉強廉價に發售
御注文の品々深山に取揃居申候新年用防戩用として何卒御注文の程奉願候
○色メリヤス ○毛布 ○小襪 ○小供帽子 ○ビスケット ○洋菓子類
○ジャケット ○足袋 ○ラダグマ布 ○シガレット
○羽毛蒲團 ○根莖園 ○キタイ ○膝掛袋
○山折帽 ○掛布 ○襪 ○卷布 ○羽根蒲團 ○シガレット
○ブルクハット ○小襪 ○小供帽子 ○ビスケット ○洋菓子類
注文支店直に代金引替小包郵便にて御送り可仕為 御送付叶ひ不申候へば御送
返し致下候て差支無之候

京 城 本 町 三 丁 目

吉 開 春 園

茶葉名産 却小賣
紅茶トリー

字沼田
林島植

明治四十二年 受取人 府

會社金壹千圓ノ保險契約約
額韓國支社ヨリ受領既聞終ニ運

景品附聯合大賣出し

年稍前に迫り年内餘明治町一圓（相聯合して）景品附歲暮大賣
仕に開張薄利多賣の主義を以て御便利と雖も將來の御引立を仰せ度
面下に奉告上候期間及景進呈の方法種加盟商店を列記し茲に
大賣出十二月五日同月三十一日迄
聯合加盟店五拾錢毎に納買は景品券收宛を呈すべし
但實質は此限りならず
景品代金三圓毎に

我思ふ母國新聞(三府四十三縣に發行するの總てを配達する取次店には有りや無しやご御尋ねの方あらは)

唯大成社(本店京畿國領事館通支店龍山溪江通參丁目)

あるのみご御客可被下候

● 我探す店ありや ●